

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

旧植田家だまり

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

Vol. 24

2015年4月発行

企画展

八尾のまちなみ

講演会

JR八尾駅とその周辺

連続講座2014・後期

「木(き)」

連載コラム

「落穂拾い—今東光の薫風—(十八)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

【通常展】

大和川付け替え関連展示

2015年

5月1日(金)～5月31日(日)まで



通常展「大和川付け替え関連展示」では、大阪平野の変遷、大和川付け替えの歴史、そして八尾を含めた河内地域と旧植田家の出来事を、写真入りの年表で分かりやすく展示しています。あわせて植田家所蔵の資料も展示します。

※休館日：火曜日、5月7日(木)・8日(金)・11日(月)



八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅

同時展示 古文書資料

旧植田家住宅に伝わる古文書資料を、6月開催の企画展に関連して展示します。

◇6月4日(木)～7月12日(日)

企画展 **植田家と新田開発**
(「安中新田検地帳」(宝永3年)を展示)

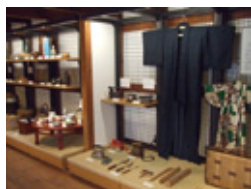
※休館日はP15をご覧ください



常設展

土蔵1(民具展示室)展示一部リニューアル

2015年4月1日(水)～3月31日(木)まで



次回企画展

「植田家と新田開発」

2015年6月4日(木)～7月12日(日)

今年八尾市の文化財に指定された「安中新田検地帳」をはじめ、植田家に伝わる新田開発に関する古文書を展示します。

Contents

- 4 企画展
八尾のまちなみ
- 6 講演会「JR 八尾駅とその周辺」
- 7 こどものためのお茶会
- 8 連続講座 2014・後期
「木(き)」
- 10 三会所だより(4)
- 11 旧家で楽しむ落語会
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ㊹
- 13 植松のまち・ひと ー第15回
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十八)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

八尾駅前に残るレンガ造の壁

旧国鉄(現JR)八尾駅前には、かつて旧帝国製糸会社の工場や大日本倉庫株式会社の倉庫などレンガ造の建築群があった。写真のレンガ造の壁(大日本倉庫)は当時の敷地の外壁と考えられ、別の倉庫の壁と共に時代の匂いを感じさせる。(2015.4 撮影)



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

八尾のまちなみ

旧植田家住宅周辺にみる今昔風景



昔



昔

今

引込み線のあった倉庫



今

植田家住宅南の通り



2015年3月7日(土)～4月26日(日)まで開催された企画展「八尾のまちなみ」旧植田家住宅周辺にみる今昔風景」は、昨年度の企画展「八尾の鉄道」に続く写真パネル展として、旧植田家住宅とJR八尾駅を基点に昭和40年代頃から現代に至るまでのまちなみの変遷を5つのテーマでたどりました。今回新たに提供して頂いた写真や資料もあり、現代との違いがより明確になりました。また、かつて八尾駅前に在ったレンガ造の建造物にも注目し、資料や写真にのこる建物の検証や講演会(6ページ)の開催によって、より具体的な今昔風景を想起することができました。

各テーマごとに展示された今回の企画展では、まず最初に「旧植田家住宅周辺に見る風景」を紹介。めまぐるしく変化する時代のなかで、昔の生活の匂いがのこる旧植田家住宅周辺の風景に、地域の歴史やそこに住む人々のくらしの豊かさを感じることができました。旧奈良街道沿いには今も数多くのお寺や遺構があり、また明治22年(1889)に開業した「八尾駅」も日常の風景の一部となっています。

続く「踏切のある風景」では、そのJR八尾駅から志紀駅までの区間にある7つの踏切りの古写真を取り上げ、それぞれの場所を特定



JR 八尾駅前北の通り



第二安中踏切(旧植田家住宅北側)



竜華操車場跡の公園とマンション



植田家と日本カタン糸会社との関係を示す資料



八尾にある7つの踏切りの今昔写真 展示風景

して現在との比較をしました。写真は昭和40年(1965)前後の同じ時期に撮影されたもので、初めはこの踏切なのか分かりませんでした。写真に写るわずかなヒントを頼りに、全ての場所を特定することができました。展示としてはかなりマニアックだったのではないのでしょうか。

さらに「竜華操車場のある風景」では、かつて八尾にあった広大な操車場の内部と鉄道の写真(個人提供)を展示しました。今の風景からは想像できないような施設と汽車(貨物)に、当時の生活音までもが伝わってきます。また「レンガ造建築のある風景」にも、鉄道との関わりがありました。当時、八尾駅周辺には旧帝国製糸工場や大日本倉庫をはじめとするレンガ造の建物があり、その工場や倉庫と鉄道(線路)を結ぶ輸送用の引込み線が敷かれていました。数年前まで、その痕跡を見ることができましたが、今では昔の風景となりました。

最後に「日本カタン糸会社と植田家」との関係について資料から明らかにし、旧帝国製糸工場の変遷を紹介しました。ぜひ皆さんも一度まちの風景を思い起こしてみてください。

(旧植田家住宅 学芸員 安藤亮)

2015年3月8日(日)

講演会 「JR 八尾駅とその周辺」

講師：石田成年氏(柏原市教育委員会)



レンガ塀の前で解説する石田氏

旧植田家住宅では企画展「八尾のまちなみ」に関連して、柏原市教育委員会の石田成年氏を講師にお招きし、三月八日(日)に講演会「JR八尾駅とその周辺」を開催しました。考古学がご専門の石田氏は、小さい頃からの鉄道愛好家で、現在は日本の近代化に貢献した施設や建造物(近代化遺産)について精力的に研

究をされています。実は、昨年春の企画展「八尾の鉄道」は、石田氏のご協力とご助言を得て開催することができたのですが、その際にお願いをしていた講演が一年越しに、念願叶って行われることとなりました。

講演会では、まず始めに鉄道が人々の生活や地域の産業に大きな影響を与えたことを指摘し、関西本線の歴史や八尾駅をはじめ、志紀駅、近隣の駅についての話をされました。八尾駅は明治二十二年(一八八九)に大阪鉄道(湊町〜柏原間)が敷設された際に開業し、明治三十三年(一九〇〇)に関西鉄道、明治四〇年(一九〇七)の国有鉄道を経て、昭和六十二年(一九八七)に現在のJR(西日本旅客鉄道)の駅となります。

八尾駅周辺には製糸工場や製油工場、倉庫などが建ち並び、鉄道から工場へ直接荷物をレールで運搬することのできる引き込み線が敷かれていました。こうした工場の歴史を知ることには地域の歴史を紐解くことになる。石田氏は言います。その中でも駅の北側にあったカタン糸を製造する大規模な旧帝国製糸株式会社は、産業の発展の歴史やレンガ造の近代建築を語る上でもたいへん重要です。残念ながら昭和六十一年(一九八六)に取り壊され、

現存していませんが、地元の皆さんの記憶に新しいのではないのでしょうか。

石田氏はレンガ造の建物の魅力について「レンガはひとつひとつ職人によって手作業でつくられ、職人の手により組み建てられる。だからこそ人のぬくもりが感じられる。」と語られました。そして、それを受けて講演会では誰でもすぐにわかるレンガの楽しみ方のレクチャーもありました。

「私たちの現在の生活に大きく影響を与えた近代の遺構たちは、私たちのすぐ身近にあるものであるからこそ普段は気づかないことが多いですが、チャンネルを少し変えてみるだけで見えてくるものです。お住いの風景を一度見直してみると、心に触れるものがあるはず！」との括りの言葉に、早速、自分の住む町の近代化遺産を探しに行きたくなりました。

講演会後は、石田氏の提案で駅前にある大日本倉庫のレンガ塀を実際に見に行くことになりました。かつて引き込み線があった場所をみたり、レンガの実測をしたりと、参加者の皆さんは石田さんの話に夢中で聞き入っている様子でした。今後レンガ造の建物を見ると、つい意識して見てしまいがちです。



こどものための お茶会



一月二五日（日）、地元の女性会の方々に先生にお招きし、旧植田家住宅の茶室で「こどものためのお茶会」を開催しました。このイベントは普段お茶会に参加する機会が少ない子どもたちにお茶に親しんでもらおうと企画したもので、今年で四回目を迎えました。「毎回、とても楽しみにしています」という嬉しい声もあり、徐々にリピーターの方が増えてきたことを実感しています。今回は親子で参加される方が多く、三席設けた茶席はほぼ満席となりました。

まず始めに、先生から簡単な作法について教えてもらい、その後、茶室に入って正座をして待ちます。最初、子どもたちは慣れない正座や雰囲気になんか緊張気味でしたが、お菓子が運ばれてくると、思わずにっこり顔がほころびました。ちなみにお菓子は子どもたちが大好きなドーナツやゼリーなどをいつも用意しています。それぞれ順番に、懐紙の上にお菓子をとり、美味しくいただきました。

そして、いよいよおまじかのお抹茶です。運ばれてきたお茶碗を正面に置き、隣の人に「お先に」、先生に「お点前頂戴いたします」とあいさつをしてからいただき

ます。あいさつが終われば、お茶碗を手に取り時計回りに二回ほど回し、一口飲み、残りは二口で飲み、最後は音を立てて飲み切ります。「う〜苦い!」「美味しい」など感想は色々でしたが、皆さんそれぞれに抹茶を味わっていました。

抹茶をいただいた後は、お茶碗の飲み口を人差し指と親指で軽くふいて、お茶碗を反時計回りに二回ほど回し、出された場所に戻します。「結構なお点前でした」とお礼のあいさつも忘れてはいけません。

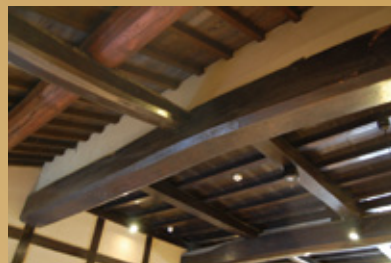
一般的なお茶会ならここで終了ですが、このイベントでは希望者に自分でお抹茶を点ててもらおう体験も実施しています。子どもたちは先生に教えてもらいながら、夢中でお茶を点てていました。しかし、「やっぱり、先生が点てたお茶の方が美味しい」「点てるのはむずかしい」と、かなり苦戦していたようです。

すべてのお茶会は和やかな雰囲気の中で、無事終了し、参加者それぞれにお茶を楽しんでいただくことができました。来年もこどものためのお茶会を開催する予定です。ご興味がある方はぜひご参加ください。

(旧植田家住宅谷口弘美)

木

—き—



(全三回)

2015年 第一回
 ◆1/11(日)
 「植田家の木」
 庭や建物、民具などの木を見よう!

2015年 第二回
 ◆2/1(日)
 「木版画に挑戦しよう」
 浮世絵は難しいので、とりあえず
 大津絵を彫りました。

2015年 第三回
 ◆3/1(日)
 「まち研ハウスを
 組み立てよう!」
 協力:NPO法人八尾すまいまちづくり研究会

○家作りの体験で建物の構造や住環境について学びました。

「木き」

連続講座2014年度・後期

二〇一四年度の連続講座は、前期では「紙」をテーマに和本作りや裏打ち体験などを行ないましたが、後期では「木」をテーマに全三回の講座を実施しました。毎回テーマは旧植田家住宅で開催中の展示や施設の特徴に合わせて決められ、「昔のくらし」展が開催されている一月から三月の期間中、植田家の建物や民具あるいは美術工芸品について「木」の視点から考えてみようという試みでした。

その第一回目「植田家の木」では、広く木について知ってもらうべく、建物に使われている木や植田家の庭の木、また木で作られている昔の生活道具を体験（見学）してもらおうと予定していましたが、残念ながら参加申し込みは0名でした。講座はまたの機会にできればと思いますが、ちなみに植田家に所蔵されている民具には、用途不明な木の箱があり、その道具についても見てもらう予定でした。その道具は来年の「昔のくらし」展に登場予定です。

第二回は「木版画に挑戦しよう」ということで、講座には子どもから大人まで合わせて5名が参加し、手軽に楽しめる木版画を学びました。美術や図工の時間に学習するような木版画の基礎的な話から浮世絵について説明をし、実際に植田家にあるこの本物の浮世絵を見てもらうと、参加者は目を丸くして、その技術の高さや作品の風合いを間近で楽しみました。本来は手にとってみていたはずの浮世絵が現代ではガラスケースの向こう側でしか見られなくなってしまうかもしれませんが、この日は本来の距離に少しだけ近づいてみました。

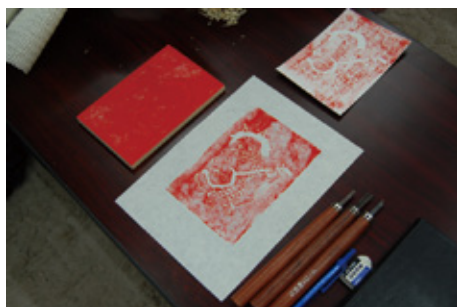
さて、いよいよ木版画に挑戦ですが、浮世絵は難しいので、同じく旧植田家所蔵の「大津絵」を彫ってもらうことに。「大津絵」は肉筆画なので簡単なわけではないですが、画題が分かりやすく、彫る時間も少なく済みます。しかも今回はモノクロで印刷した図案を除光液で木に転写する裏技を使い、彫ることに専念しました。

参加者は、版画の仕上がりを他の参加者と見比べて楽しんだり、じっくり時間をかけて彫ることを通して、作品を見る目が変わったのではないでしょう。



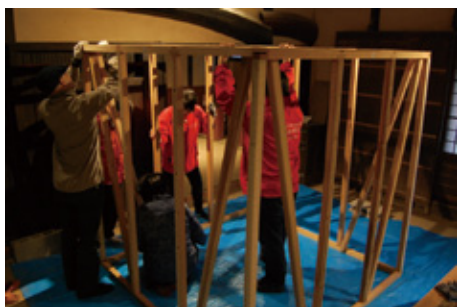
第二回の様子

黙々と彫る参加者



→作品が完成！

スタッフも一緒に5人で組み立て。



第三回の様子

木と家についての講座



連続講座の第三回は、「まち研ハウスを組み立てよう」を行いました。「まち研ハウス」とは、NPO法人八尾すまいまちづくり研究会(まち研)が開発した建物の構造や住環境について学ぶための体験キットで、今回はそれを特別にお借りすることが出来ました。何でも「まち研ハウス」の出勤は数年ぶりだそうなので、講座の前日には入念なチェックも行われました。

当日、外はあいにくの大雨で、参加者も2名と静かなスタート。まち研のメンバーで当法人(HICALE)のメンバーでもある北村茂章さんと原多摩樹さんの両氏の指導の下、土間で早速「まち研ハウス」を組み立てました。

参加者は建物の構造を考え、頭をひねり、時には相談しながら協力して造り終える時と「うわあ、すごい」と一言。何がすごいのかといえば、建物を支える部材(筋交い)を一本取り外してみると、家がグラグラになり、再び取り付けるとしっかりと建ちます。建物の計算された構造に植田家のスタッフも一緒になって驚きました。

体験後、講座室で行われた北村さんの「木と建物と地球環境」の話も興味が尽きず、「木の面白さを身近に感じることが出来ました。」

(旧植田家住宅 スタッフ)

三会所だより(4)



鴻池新田会所では早春のアセビの花にはじまり、ウメ、ツツジ、フジ、クチナシ

などと、庭木の花が咲いてゆきますが、残念なことにサクラもなく、花を目当てに訪れる人はほとんどありません。催しのない日はじつに閑散として、雑然喧騒の街に穴を開けております。とくに本屋と

蔵の並びの間は見通しのよい広場で、そこはかつては頑迷に除草され裸地でしたが、いまは飛砂と表土流失を防ぐため草地とし、一昨年ころからシバではなくいわゆる雑草を適当に刈ったり抜いたりしながら、つぎつぎに育つところを見守っております。

セイヨウタンポポ、ヒメスミレ、アメリカフウロ、カタバミ、オオバコ、ハコベ、ウラジロチチコグサ、コメヒシバ、メヒシバ、コスズメガヤ、エノコログサ、カヤツリグサ、スズメノヤリ、ドクダミなど五〇種あまりの草本群落で、外来種も多い平凡な人里く都市型植生ですが、生垣の陰にはカラスピシヤクなどあまり見かけないもの見つ

かります。会所周辺ではほとんど失われた野良の気配がいくらか残ればと思いつつ、秋の終わりまでそれらの姿を楽しみむことにいたします。草をあてにした虫や鳥を見かける機会も増えました。

なお、五月から六月上旬にかけては歴史講座や小展示、史跡ハイキングなどの催しを企画しております。くわしくはホームページをご覧ください。

(鴻池新田会所松田順一郎)



●鴻池新田会所

場 所：東大阪市鴻池元町2-30
交 通：JR学研都市線「鴻池新田」駅
下車、南東に徒歩5分
開 館：10時～16時
休館日：月曜日、祝日の翌日(土・日除く)
観覧料：大人300円、小・中学生200円
お問い合わせ：06-6745-6409(電話)
06-6744-7498(FAX)
ホームページ：
<http://www.bunkazaishisetsu.or.jp/kaisho/>

◎三会所いべんと案内

◇加賀屋新田(住之江のまち案内ボランティアの会)

・5月5日(祝)「すみすみ公園フェスタ二〇一五」

・5月22日(金)「大阪南港咲洲を歩き、いいとこ

再発見」(住之江会館主催) TEL 06-6683-2882



a



b



c

a: ヒメスミレ *Viola inconspicua* subsp. *Nagasakiensis*, b: カタバミ *Oxalis corniculata*, c: カラスピシヤク *Pinellia ternata*.
ヒメスミレにはツマグロヒョウモン(蝶)の幼虫が、カタバミにはヤマトシジミ(蝶)の幼虫がつき、羽化して草地を飛び回る。

きょうか たの ぶんごから 旧家で楽しむ落語会

旧植田家住宅の座敷で楽しむ落語会は、今回で三回目の開催となりました。落語は噺の中に昔の生活様式や表現がたくさん盛り込まれ、昔のくらしについて学ぶには最高のエンターテイメントといえます。旧植田家住宅では、小学生を対象に展示や体験を通して昔のくらしについて学ぶ機会を設けていますが、この落語会もその一つといえます。

さて、二〇一五年二月八日(日)「旧家で楽しむ落語会」は、お馴染み「素人寄席 天満天神の会」の四人の方々に出演して頂きました。演目は、八軒家たし歌さんの「阿弥陀池」、天

神亭神山さんの「道具屋」、天神亭真ん紀さんの「厄払い」、そして天神亭岩塩さんの「井戸の茶碗」です。会場の座敷が、より一層落語会の雰囲気を感じ上げて臨場感を作っています。また噺の中には、旧植田家住宅で見ることのできる道具もたくさん登場し、当日は落語を聞くだけでなく、実際の物を展示で見ることでもできました。

どの演目も、ひとつひとつの所作や言葉の妙に感心を感じながら聴いていると、それがいつの間にか笑いに変わっていることに気付きました。また、座布団の上で一人の人が動きや声の調子を変えながら、一人で会話をしている姿は、子どもにとって面白い(滑稽)だろうなと考えたり、噺の中で起こる奇想天

外な出来事なのに「実際にありそう」と可笑しく思いながらその世界にはまっていると、笑いとともに時間はあっという間に過ぎていきました。

当日の会場アンケートでは「おなか痛くなるくらい笑いました。しわもふえました。」「落語、大好きになりました。」「久しぶりに笑いました」などの喜びの感想が多くあり、参加者の皆さんは大満足な様子でした。また会場も満員御礼の賑わいぶりで、次回開催の期待も高まりました。ただ残念なことに子ども参加者が一人もなく、子どもたちは落語会よりも日曜の休暇を楽しんだようです。

(旧植田家住宅 安藤亮)
♪チャカチャンリンチャンリン、デンデン♪



八軒家たし歌 「阿弥陀池」

天満



天神亭 神山 「道具屋」

天神



天神亭 真ん紀 「厄払い」

の会



天神亭 岩塩 「井戸の茶碗」

なにわの伝統野菜 栽培日記

【畑の新メンバー】

現在、登録制になっている

畑メンバー。前期・後期に分け、子どもたちと一緒に前期は夏野菜、後期は冬野菜を育てている。当初は、このよ

うな登録制ではなく、毎回、事前に申し込む自由な状態

だった。ましてや相手は小学生の子どものばかりなので、忘

れる忘れる(笑)。申し込んだ事すら、全く覚えておら

ず、だるれも来ないスタツだけの寒むすぎる収穫の日もあった。かと思えば、「試食」の

2文字が付くと、恐ろしいほどの人数が押し寄せる。…みんなチャツカリしてますワ。「ア

ンタ、誰??」って顔もチラホラ。そんな、世話もしてへんのに、食べられへんやろ、ツウ。(KAMAの叫び)

そんなこんなで、不公平という事もあり、数年前から今の形態になった。すると、興味

を持って頂けた親御さんからの問い合わせが増え、子どもと共に参加。今では申込多数で、抽選という方法も取らせて頂いた。この度

子どもたちからの感想

- 自分で種をまいて出来た野菜はとても美味しかった。好きじゃない野菜も食べれた。(Iちゃん)
- 野菜の種類で収穫の仕方が違うのに驚いた。特に人参の収穫は大変だったけどおもしろかった。(Mちゃん)
- いろんな知らない野菜(伝統野菜)を知れて良かった。他の地方の珍しい野菜にも興味を持った。(Yちゃん)
- ゴマみたいな小さい種が大根やカブになるのがすごく不思議だった。(Iくん)
- 野菜には色々な種類があるんだなぁと勉強できた。同じ大根なのに味が全然違うし、人参も種類によって色が違うことにも驚いた。毎回少しづつ成長する野菜を見てワクワクした。これからも野菜をたくさん食べようと思う。(Yちゃん)
- 土の匂いがいい匂いだった。(Kくん)



新メンバーも多数加わり、新たな始まりとなる。私自身、改めて気を引き締めるとともに、今後の参考にと前メンバーと、その親御さんに感想を伺った。その一部をご紹介します。



- 土から野菜が出てくるのにビックリした。(Sちゃん)
- みんなと一緒に収穫した野菜を食べてうれしかった。苦手だった豆ごはんも食べれた。甘かった。家でも食べれた。(Aくん)

保護者の方々からの感想

- なかなか土と触れ合う機会がない中、貴重な体験をさせて頂きありがたい。
- 野菜作りを通じ、匂いの味を体で感じてくれて良かった。
- 珍しい伝統野菜と関わり、野菜本来の味や苦みを知れて良かった。
- 家ではあまり野菜を食べないが、みんなと一緒にだとおかわりまでする。
- 野菜の知らない事を教えてもらったり、調理法まで教わった。
- KAMAさん、ご飯炊くの上手すぎ! (KAMA、照~~~;)



ご協力下さった方々、ありがとうございます。今後も子どもたちが楽しんで色々な体験ができるよう、無い知恵を絞り出しながら頑張っていければと思います。

4月下旬から前期メンバー、始動です!

植松のまち・ひと

第十五回

◇完成！八尾駅前広場

かねてから進められてきたJR八尾駅前整備も、南側駅前広場の完成によって、一段落がついた。例えば平成二十二年度（二〇一〇）から周辺の工事が開始され、約五年の間に、旧駅舎の解体から仮駅舎を経て、橋上駅舎と自由通路が完成し、踏み切りの拡幅工事も行われた。また、北側駅前には、これまでにはなかった横断歩道に信号機が付けられ、車や人びとの流れと動きも大きく変わっていった。

そのような時代の変遷をわずかながらも記録しようと、旧植田家住宅では植松のまちを中心に、地域の聞き取りやまちあるき

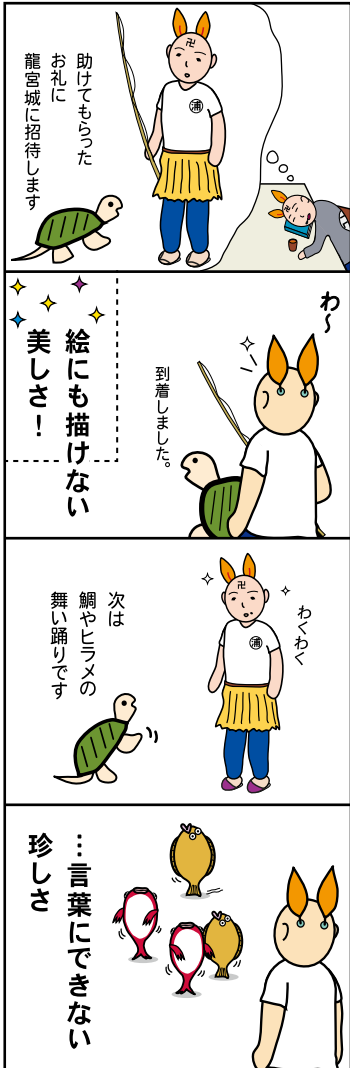
「JR八尾駅前広場、 3月31日供用開始。」

などを行なってきた。また展示やこうした広報誌を通して、まちとひととの面白さを伝えようとしている。

さて、JR八尾駅前広場は三月三十一日に正式に供用開始となった。環境に配慮した設備や花壇、憩いのベンチ、ロータリーに加えタクシー乗り場も設けられ、まさに新八尾駅の誕生である。ただ、それと同時に失われたものもあるが、良くも悪くも道路事情だけは変わらず、古いまちならではの環境が保たれている。さらに旧駅の北と南のホームを結ぶ跨線橋に使用されていた柱（「鉄道院」の記載あり）も再利用され、現在は街灯の柱となっている。次なる変化の前に、ぜひ一度、新八尾駅をご覧あれ。

マンジークン

安富士 暁



跨線橋の柱を利用した街灯



完成したJR八尾駅前広場



工事前の南側駅舎(2011.4)と
駅舎の解体風景(2012.2)



あれから
2年…

落穂拾い

I 今東光の董風 I (十八)

文・伊東健

二〇一四年『文藝春秋』八月号で独占公開された、川端康成が初恋の女性に綴ったとされる恋文は、その情熱的な愛の言葉から、文学作品とはまた別種の感動を覚えました。と、同時に川端と生涯親しい交わりを持ち続けた今東光が、川端の死後に発表した「小説川端康成」(初出『オール読物』昭和四十七年七月号、単行本『青春放浪』昭和五十一年三月三十日光文社発行)で、描写していた若き川端康成の姿と共通するものであったことにも驚かされました。

川端の年譜の一九一九(大正八)年二十歳の項目には、次のような一文が記されています。

一 高の『校友会雑誌』第二七七号に「ちよ」を發表。池田虎雄の紹介で今東光を知り、西片町の今家に入りました。東光の父武平から心靈学・神智学への興味をうっつけられる。この年、本郷元町のカフェ・エランで伊藤初代(千代)と知り合う。

東光は「小説川端康成」では、このカフェを「魚の目」と仮名し、千代をチヨと表記したうえで、親しみを込めてチイ公と称し、二人の出会いの風景を書き残しています。

それはまったく小さな可愛らしい妖精だった。

きちつと合せた襟もとから流れる胸の線はいささかの膨みもない。つまり乳房の存在を感じしめないのだ。細い胸に赤い帯をしめ、すらりとした長い脚を包んだ裾がひらひらとして活発に店の中を動いている姿はまるで飛び廻っているように軽快だった。(中略)

チイ公はお煙草盆という髪がよく似合う娘だったが、僕が一つ気になったことは泣き黒子ぼくろがあったことで何だか薄幸な感じを与える哀しい娘だった。そういうところも川端は得も言わず惹かれたのではあるまいか。

川端とチヨの初恋と、東光の人妻との恋が対比的に描写され、東光は自らを偽悪的に語ることで、川端の純愛を強調します。ままたらない関係は、どちらも最終を迎えますが、東光には川端がチヨに翻弄されていると見えていたようです。その上で、東光は次のように記します。

川端が終生かわらない美少女讚美の原点となったチイ公の生い立ちなど僕は知る由もない。またいかなる家庭に育ち、どんな教育を受けたかも知らない。しかしながら彼女の南部産のすこぶる美少女であった面影は今でも忘れない。(中略)

しかも川端を惑乱させ、その惑乱は彼の一生を通じて抜け切れなかったほどの印象を与えたことを想えば、チイ公の出現の役割も大いに意義があったといわなければならぬ。

東光は、川端との関係を時に「陰陽相和して五十年」と称したり、「単なる友情というものではない」とも表現し、川端に万感の想いを込めた戒名(文鏡院殿孤山康成大居士)を送り、その死を見送りました。

将来の文豪が、まだ若き新進作家として登場する前後に味わった初恋の苦い味を、友人の目線で描いた「小説川端康成」を最新の資料と併せて読むと、いつの時代も

必死に生きた恥も外聞もない青春があったのだと勇気づけられます。



イラスト/安富士

【2015年5月～7月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展示

◎5月1日(金)～5月31日(日)
通常展「大和川付け替え関連展示」

◎6月4日(木)～7月12日(日)
企画展「植田家と新田開発」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

企画

(詳しくはお問い合わせください)

◎5月
9日(土) 植松灯籠の日(夜間開館)

◎6月
20日(土) 八尾再発見!市史に見る八尾(講師:尾崎良史氏)
28日(日) 連続講座2015「土(つち)」①
～くらしのなかの土とうつわ～

◎7月
5日(日) ギャラリートーク(展示解説)
20日(祝・月) こどもガイド体験講座1
26日(日) 連続講座2015「土(つち)」②
～日乾煉瓦を作ろう～
ひほしんが



休館日カレンダー

■ = 休館日

□ = イベント開催日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6 June

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7 July

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)
高校・大学生100円(団体50円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
および介助者は無料

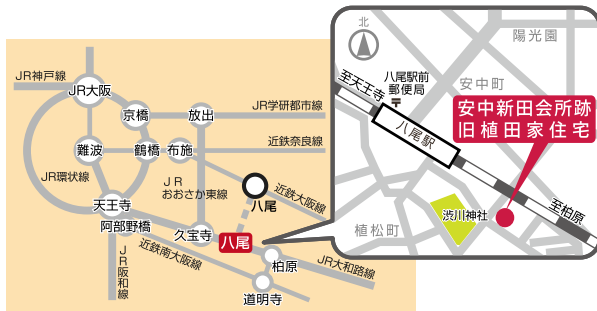
●お問い合わせ

〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分



シーズクリエイトは「印刷事業」と「地域活性の仕組作り」を通じて、物心豊かな“明日”をつくります。



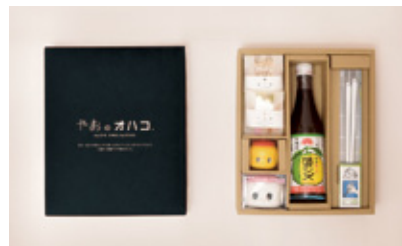
事例 :no.011
「やおのおハコ」好評発売中！

例えば、誰もが一度は使ったことのある糊。

例えば、おいしい！とその味が全国的に話題を呼んだポン酢。

これら広く一般に知られている製品が、実は八尾生まれだということは、あまり知られていません。身近にある八尾の製品をもっと知ってもらいたい。そんな想いからものづくりのまち八尾の得意ワザ(十八番)をパッケージ(オハコ)にしてみました。

八尾からの手土産に、八尾でのお土産に、いかがですか？



NEWS

八尾市観光案内所と「YAOLA」HPで好評発売中です！

- 八尾市観光協会 HP <http://www.yaomania.jp/>
YAOLA HP <http://yaola.jp/>



私たちと、八尾の街。

商店街からつながる地域のきずな

今回は北本町中央通商店会 会長の勝浦さんにお話を聞きました。

「北本町中央通商店会は、近鉄八尾駅から北西へ徒歩5分のところにあります。近年は、大阪経済法科大学の近鉄八尾駅前キャンパスや大規模なマンションができたこともあり、学生さんやファミリーのお客さんも増えてきました。そんなニーズに答えるために、私たちも色々なことにチャレンジしています。

例えば、商店街の魅力をより良く発信していくための勉強会を実施しました。そこで学んだことを活かして、お店の前に共通の看板を設置し、おすすめの商品やメニューなどを日替わり、週替わりでお客さんにわかりやすいようにPRするなどの工夫をしています。

そして、2013年度から毎年、秋には「ハロウィンフェスタ」、冬には「クリスマスフォトコンテスト」を始めました。どちらのイベントも地域の皆さまに大好評で、期間中はたくさんの方にお越し頂いています。2015年度も同じく実施を予定していますが、「今年もあのイベントあるんですか？」なんて聞かれることもあり、少しずつ地域に定着しつつあるのかなと思います。私たちが半分楽しみながら行っている面もあり、商売以外で地域の皆さまと触れ合えるのは嬉しいことです。

将来的なことも考えたりしますが、商店街って単に便利で、安く買い物ができるいい場所だけではダメだになって思うんです。もちろんそれは必要ですが、それ以外に大切なのは、ここに人が集まって、日常のコミュニケーション、さらに地域のきずなが深まっていく。そんなきっかけを創っていくのも私たち商店街の役目なんだと思いますね。」

近鉄八尾駅の近くに来たときは、ぜひ、北本町中央通商店会にお立ち寄りください。



取材協力：北本町中央通商店会 会長 勝浦 宏祐さん Facebook：「北本町中央通商店会」で検索ください。